第１章
西蒲区の概要

（１）地勢

西蒲区は、新潟市の南西部に位置し、区の面積は176.57㎢に及び、市内8区の中で最も広く、全市の約4分の1を占めています。

地形は変化に富み、市内で唯一、海・山・平野を併せ持っています。

周囲とのつながりは、西は日本海に臨む約15㎞の海岸線となっており、北は西区、東は南区、南は長岡市、燕市、弥彦村と隣接しています。

区内は、地域コミュニティ協議会の単位で9つの地区（岩室・西川・潟東・中之口・巻・漆山・峰岡・松野尾・角田）から構成されています。

海岸線の夕焼け

上堰潟公園から眺望する角田山

緑あふれる田園風景

（２）歴史

平成19（2007）年4月1日、新潟市が政令指定都市に移行し、市内の8つの区の1つとして、旧岩室村・旧西川町・旧潟東村・旧中之口村・旧巻町で構成される西蒲区が誕生しました。

区内の各地区から300を超える遺跡が発見されており、いにしえから人々の営みがあったことを示しています。

岩室地区の歴史

旧岩室村の大部分は中世の荘園時代、弥彦の荘に属し、弥彦神社の社領であったのではないかと考えられています。
江戸中期以降は、三根山藩、桑名藩、直轄領、与板藩に分属していました。
現在の町村自治体の基盤ができた明治22(1889)年、石瀬村・岩室村・船越村・間瀬村・和納村・鴻ノ巣村の6か村が誕生しました。
その後6か村の合併が進み、昭和35(1960)年、新潟市と合併する前の旧岩室村の姿になりました。

天神山城址

西川地区の歴史

旧西川町の曽根村は荘園・弥彦荘に属していたと考えられ、その後、元和4(1618)年からは長岡藩の領地となり蒲原組に属していました。
元和6(1620)年には曽根組が設置され代官所が置かれました。
曽根代官所は、長岡藩の穀倉地帯の要として近隣の行政・司法・徴税を司るため、現在の曽根小学校敷地に約250年間設置されていました。
明治22(1889)年、全国的な市制・町村制施行と同時に、鎧郷村・西川村・曽根村・升潟村の4か村が誕生しました。
その後4か村の合併が進み、昭和36(1961)年、新潟市と合併する前の旧西川町の姿になりました。

旧曽根代官所

潟東地区の歴史

旧潟東村は、中世には荘園・弥彦荘に属し、その後上杉氏の所領であったと伝えられています。
江戸時代は村上藩・長岡藩・幕府領が入り混じって統治していましたが、明治22(1889)年の町村制施行により、井随村・島方村・横戸村・五之上村・共和村・潟前村の6か村が誕生しました。
その後6か村の合併が進み、昭和30(1955)年、新潟市と合併する前の旧潟東村の姿になりました。

鎧潟干拓記念碑

中之口地区の歴史

澤将監の館

旧中之口村では、武田信玄の家臣の澤将監（さわしょうげん）がこの地に定着し、打越地区の新田開発を行いました。

江戸時代になると、幕藩体制の中に組み込まれ、三条藩・村上藩・高崎藩・直轄領・新発田藩と次々と領地替えが行われました。

明治22（1889）年の町村制施行により、小吉村・三針村・道上村・打越村・加奈居村の5か村が誕生しました。

その後5か村の合併が進み、昭和29（1954）年、新潟市と合併する前の旧中之口村の姿になりました。

巻・漆山・峰岡・松野尾・角田地区の歴史

旧庄屋佐藤家

旧巻町の中心地は、江戸時代、長岡藩巻組の中心地として代官所が置かれ、近傍の村々を統治していました。

また角田山麓の三根山（現峰岡）周辺の村々は、牧野家三根山領となり、幕末には三根山藩領として統治され明治を迎えました。

明治12（1879）年、郡区町村編成法により西蒲原郡巻村となり郡役所が置かれました。

明治22（1889）年の町村制施行により、越前浜村・角田浜村・巻村・福木岡村・竹野町村・仁ヶ村・稲島村・松野尾村・五ヶ浜村・角海浜村・漆山村・潟南村・馬掘村・佐渡山村の14か村に再編されました。

その後14か村の合併が進み、昭和35（1960）年、新潟市と合併する前の旧巻町の姿になりました。

※旧巻町の四ツ郷屋地区は、政令市移行時、西区に編入されました。

（３）自然・景観

西蒲区は、豊かな自然環境と観光資源に恵まれ、日本海に臨む風光明媚な越後七浦海岸と角田山や多宝山などの一帯は、「佐渡弥彦米山国定公園」に指定され、多くの景勝地が存在します。

角田山と多宝山では、春を迎えると貴重な雪割草やカタクリなどの群生が花を咲かせ、山野草の宝庫として県内外から多くの観光客が訪れます。

平野部は、信濃川の支川である西川や中ノ口川などに育まれた広大な水田地帯が広がり、刈り取った稲をかけて天日乾燥させるために使われた「はざ木」の並木がところどころに残る米どころ新潟の景観は、美しい日本の原風景を思い起こさせます。

カタクリ

はざ木

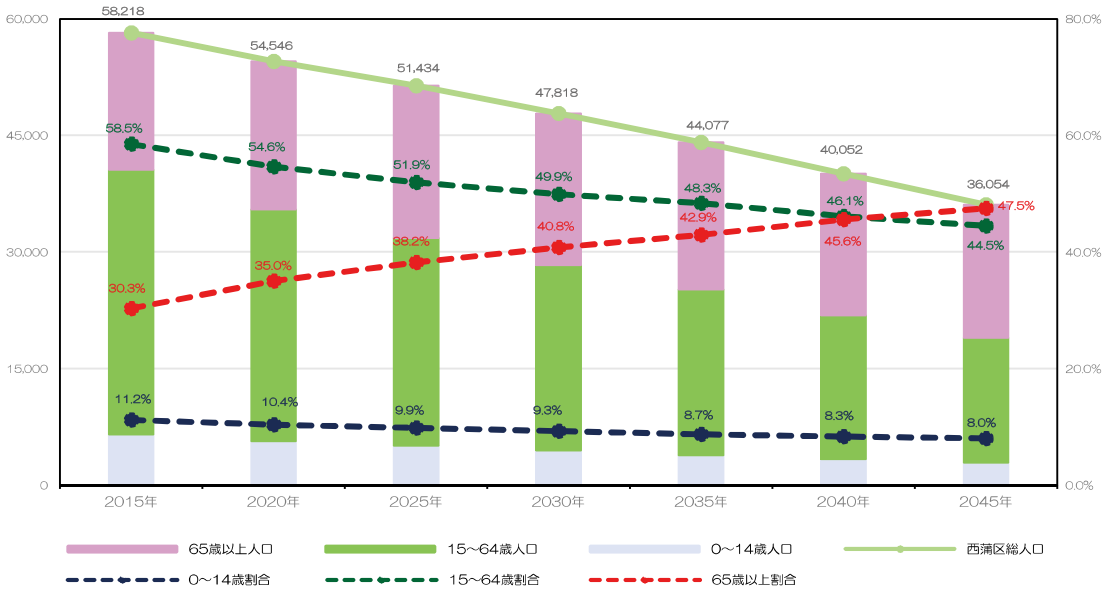
（４）人口

西蒲区の人口は54，546人で、8区で2番目に少なく、令和27（2045）年には36，054人に減少すると推計されています。

65歳以上の高齢者人口の割合は35.0％で、8区で最も高く、令和27（2045）年には47.5％に増加すると推計されています。

15歳から64歳までの人口の割合は54.6％で、8区で最も低く、令和27（2045）年には44.5％に減少すると推計されています。

西蒲区の将来人口推移



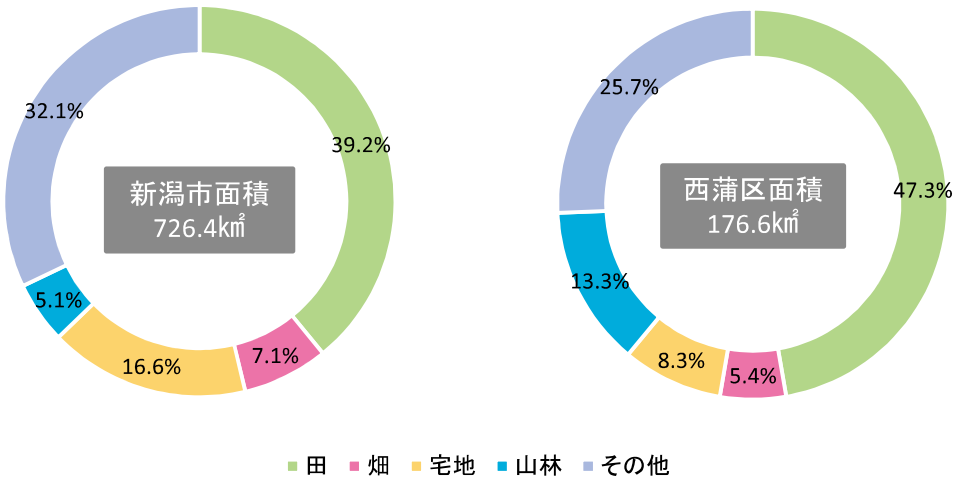
出典：国勢調査（総務省：2015～2020）、新潟市独自推計（2025～2045）

（５）土地利用の状況

西蒲区の土地利用は、47.3%が田、5.4%が畑です。区全体の半分を超える面積が農地として利用されており、他のどの区よりも広大な農地を有しています。

また、山林が13.3%を占め、その面積は新潟市で最大となっています。

土地利用状況（%）



出典：新潟市（令和4年）

（６）産業

8区の中でも農家戸数が一番多く、経営耕地面積も最大です。

広大な農地では、稲作を中心に、柿・いちじくをはじめとする果樹や、すいか・ねぎなど多様な園芸作物の生産が盛んです。

また、農家レストランや農産物・ワインなどの直売所をはじめとした6次産業化の取組により、周辺観光産業との相乗効果が生まれ、賑わいをもたらしています。

さらに、交通アクセスに恵まれた製造・物流拠点である漆山企業団地のほか、11の工業団地を有しており、特色のある企業が事業を展開しています。

恵まれた自然環境や歴史文化資源を活かした観光も重要な産業であり、なかでも北国街道の湯治場で、開湯から300年を超える歴史のある岩室温泉は、本市唯一の温泉街として県内外から多くの観光客が訪れています。

国家戦略特区の規制緩和を活用した農家レストラン

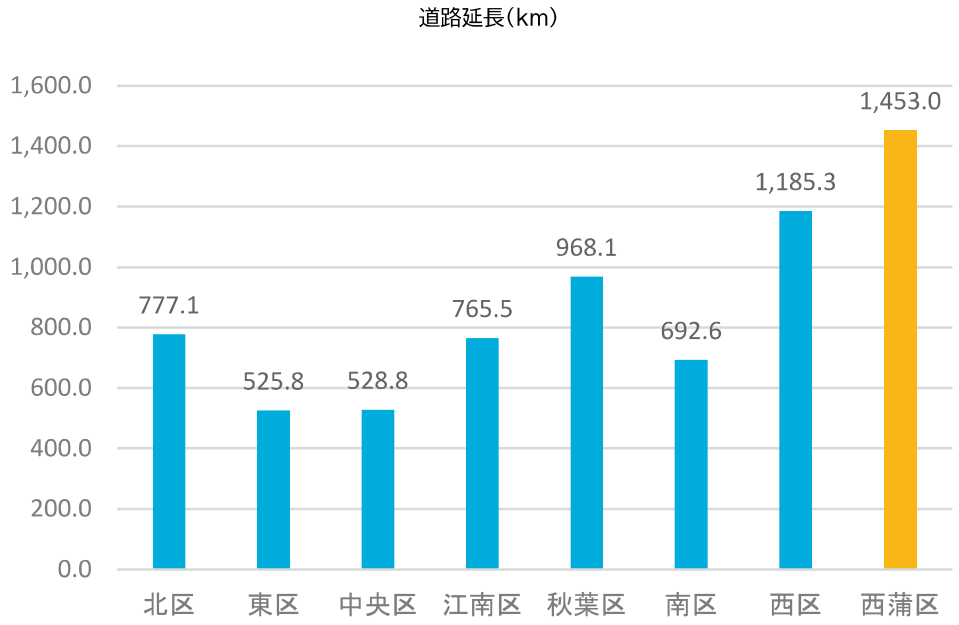
岩室温泉

（７）交通

主要な道路は、区の中央部に地域の社会・経済活動を支える国道116号が、海岸線には奇岩織り成す景勝が楽しめる越後七浦シーサイドライン（国道402号）がそれぞれ南北方向に通り、それらを結ぶ国道460号が東西方向に通っています。

区外とつながる幹線交通は、区の中央部を南北に縦断するJR越後線と、東部を縦断し多数の高速乗合バスが走る北陸自動車道があり、交通結節点として巻駅・越後曽根駅・岩室駅の3駅と、大規模駐車場を備える巻潟東インターチェンジが重要な役割を果たしています。

また、区内の移動を担う交通として、各交通結節点に接続する路線バスが運行されています。



出典：新潟市（令和4年4月1日時点）